第22回おいしい水づくり推進懇話会

日時 平成28年3月10日（木）
午後1時30分～
会場 千葉県水道局幕張庁舎
2階特別会議室

次 第

I 開会

II 水道局長挨拶

III 座長挨拶

IV 議題

1 おいしい水づくり計画の各施策の取組状況

(1) 技術的な取組み

(2) 安全・安心・おいしい水づくりキャンペーン

(3) お客様と協働した取組み

2 次期「おいしい水づくり計画」について

(1) 現計画の総括

(2) 次期おいしい水づくり計画

(3) キャッチフレーズ

V 懇談

VI その他

VII 閉会

第2 2回おいしい水づくり推進懇話会議事録（要旨）

1 おいしい水づくり計画の各施策の取組状況について

（構成員）カルキ臭の低減技術として報告されているオゾンと過酸化水素を組み合わせた促進酸化法というのは、文献によって調べて、すぐ行うことができそうな内容なのか？

（水道局）オゾンと過酸化水素の組み合わせというのは、実験室レベルで行うのはかなり厳しい。それなりの実験プラントを計画し、造らないといけない。

（水道局）少し補足だが、過酸化水素での促進酸化というのは、まだ室内実験やプラント実験を行う段階で、実用段階ではない。もし実験結果が良ければ、過酸化水素を浄水処理に使ってよい薬品かどうか安全性が確認された上で、実用化することになる。ただ、この技術は施設的な面で言えば、今ある施設に少し手を加えればできるので非常にいい方法である。

（構成員）この実験は、千葉県水道局で行っているのか？それとも全国の水道協会みたいなところで共有した実験か？

（水道局）先ほど紹介した実験は茨城県が独自に行っている実験であり、千葉県としては参考に見せてもらったという位置付けである。

（構成員）例えば、東京都水道局、神奈川県水道局など、全国の水道事業者がそれぞれ水質について様々な実験や研究などを行っていると思うが、各県によってその水質を向上させる条件にはばらつきが出るのではないか？

（水道局）各自治体の水源の水質には、当然ばらつきがある。水源の水質の差というのが非常に大きいので、事業者ごとに実験をするというのが現状である。

（構成員）カルキ臭の測定方法に係る「揮発性窒素化合物」に関する調査について、どのような状況か教えて欲しい。

（水道局）カルキ臭の指標としては、公的に確立された分析方法がなく、分析方法の検討を含めた長期的な取組みが求められると認識している。学会で発表された「揮発性窒素化合物」について、前処理について着手したところであるが、今後実際のにおいと関連調査も含めて引き続き検討したいと考えている。

2 次期「おいしい水づくり計画」について

（1）計画全般について

（構成員）残留塩素についてはだいぶ目標値に近付いたが、0.4mg/Lは達成していないので、0.4 mg/Lを目標にしたいというところはそれでよいか？0.6 mg/Lでまあまあおいしいと

なったが、やはりもっとおいしくということで、最初の 0.4 mg/L を引き続き目標値にするということになる。0.6 mg/L でいいという人は、いないか？

(構成員) 目標の書き方に関連して、残留塩素の 0.4mg/L という目標だが、今の 0.56 mg/L からさらに下げていくのは非常に難しいと思うので、何か工夫が必要だと思う。配水区域毎に測定されるので、0.4mg/L の所や高い所もあって、平均として 0.56 mg/L だと思う。0.4mg/L を達成できた所が、今後どれだけ増えるかというようなやり方もある。良い広報の仕方があればいいかなと思う。

(水道局) そういう方法もアイデアの一つとして検討させていただく。

(構成員) 第 2 次おいしい水づくり計画を策定する背景としては、第 1 次で達成できなかった目標があるからということか？

(水道局) 達成できなかった目標もあるし、飲み水としての満足度が計画策定時の 30% から 78% まで上昇したので、少しでも高いところを目指していきたいと考えている。

(構成員) 「参考資料-1」の「指標・目標」の項目に、「飲み水としての満足度」と「おいしさ」の記載があるが、その差というのは、「おいしくないが、満足はしている」という感じなのか？

(水道局) 細かいデータはないが、この表を見ると、「そんなにはおいしくないが、飲み水としてはこんなものでいいか」というところが、その差に出ているのではないかと考えている。

(構成員) やはり安全というのを、どうしても水道には求めたい。おいしさだけではない、安全ということを含めて満足度が高いのではないか。

(構成員) 「参考資料-1」は、どこかで皆さんの目に触れる機会があるのか？

(水道局) パブリックコメントの際に概要版として付けようと思って作ったが、間に合わなかった。新計画を公表する時に、概要版として公表できればと考えている。

(構成員) その時に、この水質目標の表を今までの状況を知らない人が見たら、元の数値が入っていないので何も達成されていないように見えるのではないかと思う。

(水道局) 計画策定時の値と 26 年度の値を、この中に入れていきたいと考える。

(構成員) 例えば、ジェオスミンとか、総トリハロメタンとか、トリクロラミンという言葉がよく出るが、一般的には分かりにくい。こういう水質に関わる用語を 1 つにまとめて簡単に書いてあると大変分かりやすいと思う。

(水道局) できるだけ、お客様に分かりやすく伝わるような内容で書かせていただきたいと思います。

(構成員) 次期は、「第2次」という言葉でいいか？他の名前が良いという方はいるか？前回の計画があって、その続きということで残すという意味があれば、「第2次」ということでいいと思う。

(構成員) 「参考資料-1」の一番下の、「飲み水としての満足度」や「おいしさ」の目標について、これを目標値として定めるのはいかがなものか。また、目標値の80%、55%というのは、どういう設定の仕方だったのか？こういう数値目標は今後発表していくので、指標としてちゃんとした方が良くと思う。

(水道局) これまでの伸び率から換算して、近似曲線で指数的に予測した。直線的にすると100%を超えてしまうが、徐々に少なくなるという感じで計算して出したもの。「飲み水としての満足度」については、ほぼ予測値どおりの値としている。「おいしさ」についても線を引くと50%位になるが、そこはまだ伸び代があるので、広報にさらに力を入れて5%分を上乗せしようと考えている。

(構成員) 計画の進捗状況を区切りを付けて報告できるかという点、それは難しくないか？

(水道局) 計画の進捗管理というのは中期経営計画の中でも外部評価で行っているのだから、そういう意味で言えば既に行っている。

(2) 安全でおいしい水キャンペーンについて

(構成員) 検針の紙を変えればいいという話を前から何度も言ってきたが、一向に変わらない。このリーフレットのように立派でなくていいので、計画の取組みについての情報を検針票と一緒に入れるというのを一回試して欲しい。せっかく取り組んでいるので、その情報を的確に伝えるためには、必ず見る検針票と一緒に配る方が効果が高いと思う。紙に記載されている情報量は少なくても、例えばQRコード1個付けるだけでそこから多くの情報が得られるという世界なので、そちらに力を注いだ方がいいと思う。

(構成員) 少し興味があればQRコードにスマホをかざすし、紙よりも情報が多く見られる。あれは便利。

(構成員) そういう具体的なことを、何か一つやってもらえると良いなと感じる。

(構成員) ポタリちゃんの着ぐるみもだいぶ古くなってきたが、新しく作る予定はあるのか？

(水道局) 今年は80周年で、ポタリちゃんの着ぐるみを作成してから10年が経つ。28年度予算に1体更新する予算を計上している。

(構成員) ポタリちゃんのグッズは売らないのか？それとも売れないのか？チーバくんグッズは結構販売しているが、ポタリちゃんが販売できない理由はあるのか？

(水道局) チーバくんの商品については、県ではなくて、デザインを借りて民間業者が作っている。例えば、民間業者から「こんなストラップを作りたい」という申請があつて、県が使用許諾を出して作っている。ポタリちゃんについても、もしそういった業者が現れたら検討する。

(3) お客様とのコミュニケーションについて

(構成員) インターネットモニターやウォーターメイトなどの結果について、その方々の住んでいるエリアごとの分析を水道局では行っているのか？また、フェイスブックやツイッターなどはやらないのか？

(水道局) ウォーターメイトについて、以前に配水系統毎の違いを見てみたが、違いは見られなかった。

(水道局) インターネットモニターアンケートについては、住んでいる地域や年代別等の分析は行っている。また、受水槽と直結で比べてみたが、今のところ大きな差は見られない。

(水道局) フェイスブックやツイッターに関して、行政を含めていた所でそういったツールが使われているが、本計画に導入していくような具体的な計画は立てていない。ニーズがあれば、検討していかざるを得ないと思う。

(構成員) 10年前と大きく変わったと思うことの一つに、貯水槽のことがある。5ページに「貯水槽の適正管理に向けた指導・助言、直結の推進を強化する必要がある」と記載されているが、具体的には、誰がその工事を行うのか？水道局側であるのか、マンション側であるのかを教えて欲しい。

(水道局) 基本的には給水装置なので、お客様の意思になる。我々としては、お客様に選択肢として、貯水槽方式から直結給水にできることを提案する。直結給水に切り替えるきっかけとなるように、おいしい水づくり計画の中で色々とPRをしていきたいと思っている。

(構成員) 貯水槽の適正管理ということで、衛生部局との連携と書いてあるが、連携のイメージは何かあるのか。

(水道局) 以前は保健所の方でしか関与できなかったが、法律が一部変わり水道局も関与できるようになったので、保健所任せではなく水道局もできる限り指導していこうとなった。その中で見付かった不具合等については、衛生部局の方にも情報提供をするという形で連携をとっている。